



常磐植物化学研究所
社会・環境活動レポート2009



常磐植物化学研究所の環境方針

基本理念

植物と共にあらゆる可能性を追求することにより社会へ貢献します。持続可能な企業活動を行うために、植物資源の調達から、植物化学研究及び開発、加工、製品化、そして植物栽培まで、すべてにおいて、地球環境への影響を重視し、積極的に保全活動に努めます。

環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の確立
環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを確立します。
2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進
エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。
3. 循環型社会のための3R（Reduce、Reuse、Recycle）の推進
廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。また、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。
4. 環境関連法規の遵守
環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。
5. 環境方針の周知と社内教育の推進
地球環境と共栄していくための教育を行い、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。
6. 地域の人々との共生
地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2008年4月1日
代表取締役社長

立崎 隆

登録事業所の概要

事業者名及び代表者名

株式会社常磐植物化学研究所 本社・工場
【東京支社（12名）については、中間審査までに含める】
代表取締役社長 立崎 隆

所在地

千葉県佐倉市木野子158

<http://www.tokiwaph.co.jp/>

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 技術部長	: 木村 宜仁	TEL 043-498-0007
担当者 EA21事務局	: 川上 英治 (e-kawakami@tokiwaph.co.jp)	
	: 大上 崇 (t-daijo@tokiwaph.co.jp)	TEL 043-498-0016

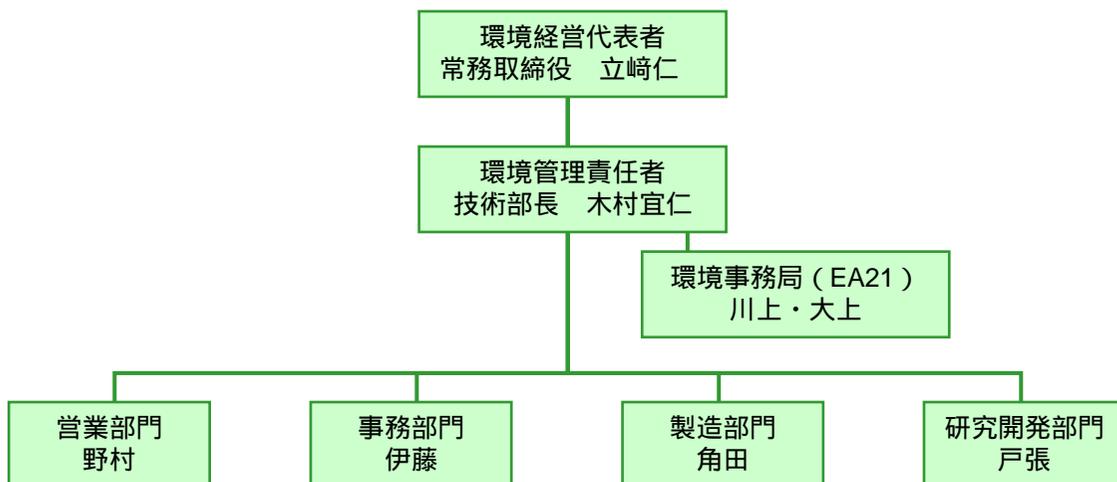
事業内容（認証・登録の範囲）

医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売

事業規模

製品出荷額	31億円 / 年
主要製品生産量	421t / 年
従業員	107名 (2009.2.1現在)
工場延べ床面積	7,956m ²

環境経営システム組織図



環境活動の取り組み計画と評価

省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み

2008年度

取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
二酸化炭素排出量（電力）の節減 ■節電運動休憩時間中の照明の消灯 ■エアコンの設定温度の管理	目標：1,812千kg-CO ₂ 実績：1,681千kg-CO ₂ 対比：92.8%	節電活動は実施できている。年間を通じて夏期に消費が多いので今後も管理を徹底する。
二酸化炭素排出量（燃料）の節減 ■エコドライブ運動の推進 ■蒸気潜熱低減 ■スチームトラップの更新	目標：2,434千kg-CO ₂ 実績：2,557千kg-CO ₂ 対比：105%	都市ガスの使用量が増え、節減目標が達成できなかった。生産に対しての変動を把握しつつ、活動に対する成果を明確にすること。
一般廃棄物の削減 ■消耗品の購入管理 ■リサイクル収集（紙、ダンボール） ■リサイクル意識向上 ■コピー用紙の裏紙の利用	目標：52.6t 実績：34.2t 対比：65%	ダンボール、紙のリサイクルを実施した。裏紙利用など、個々のリサイクル意識も向上している。今後も継続して活動する。
産業廃棄物の削減 ■分別の徹底、産廃のリスト化 ■廃溶媒の分別回収の周知	目標：65.1t 実績：47.4t 対比：73%	リスト化も終了し、分別回収もでき始めている。さらに管理を徹底する。
節水 ■各工場への節水教育 ■節水ノズルの設置 ■節水意識の向上	目標：116,783m ³ 実績：105,625m ³ 対比：88.6%	水漏れ箇所の修繕、冷却塔の管理等、大量に水を消費する設備の改善を実施した。今後は排水の再利用なども検討していく。
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ■リサイクルの推進 ■動植物性残渣の低減	目標：80.0%以上 実績：97.9%	日々の管理を継続して、現状を維持する。
地域社会との共生 ■周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	計画に沿って遂行されている。引き続き実施する。

総括

計画にほぼ沿って実施できている。ただし全体を見ると、数値目標が達成されていない項目もあり、生産の状況をよく把握しつつ活動を進めていかなければならない。実施に対する成果を数値化することが社員のモチベーション向上にも繋がり、今後の課題となる。新たに始めた地域社会との共生という取り組みに関しては、社員の積極的な姿勢が見られ、よく貢献できたと思われる。

環境関連法規制等の遵守状況

複数ボイラーの総排出ガス量が1万³/hを超えるので、特定工場に関する届出の必要が判明しました。公害防止管理者の資格取得後、年度内に当局へ届出を致します。それ以外は環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘もありません。

環境目標及びその実績

集計期間2007年度、2008年度実績

項目	年度	2007年度	2008年度
		実績	実績
二酸化炭素排出量（電力）の節減	千kg-CO ₂	1,849	1,681
二酸化炭素排出量（燃料）の節減	千kg-CO ₂	2,484	2,557
一般廃棄物の削減	総量（t）	53.1	34.2
産業廃棄物の削減	総量（t）	65.8	47.4
総排水の節減	総量（m ³ ）	119,166	105,625
食品廃棄物のリサイクル率の維持	（%）	93.1	97.9
参考 / 製品の拡売	生産量（t）	725	751
参考 / 原単位（総CO ₂ （千kg） / 生産量（t））		6.0	5.6

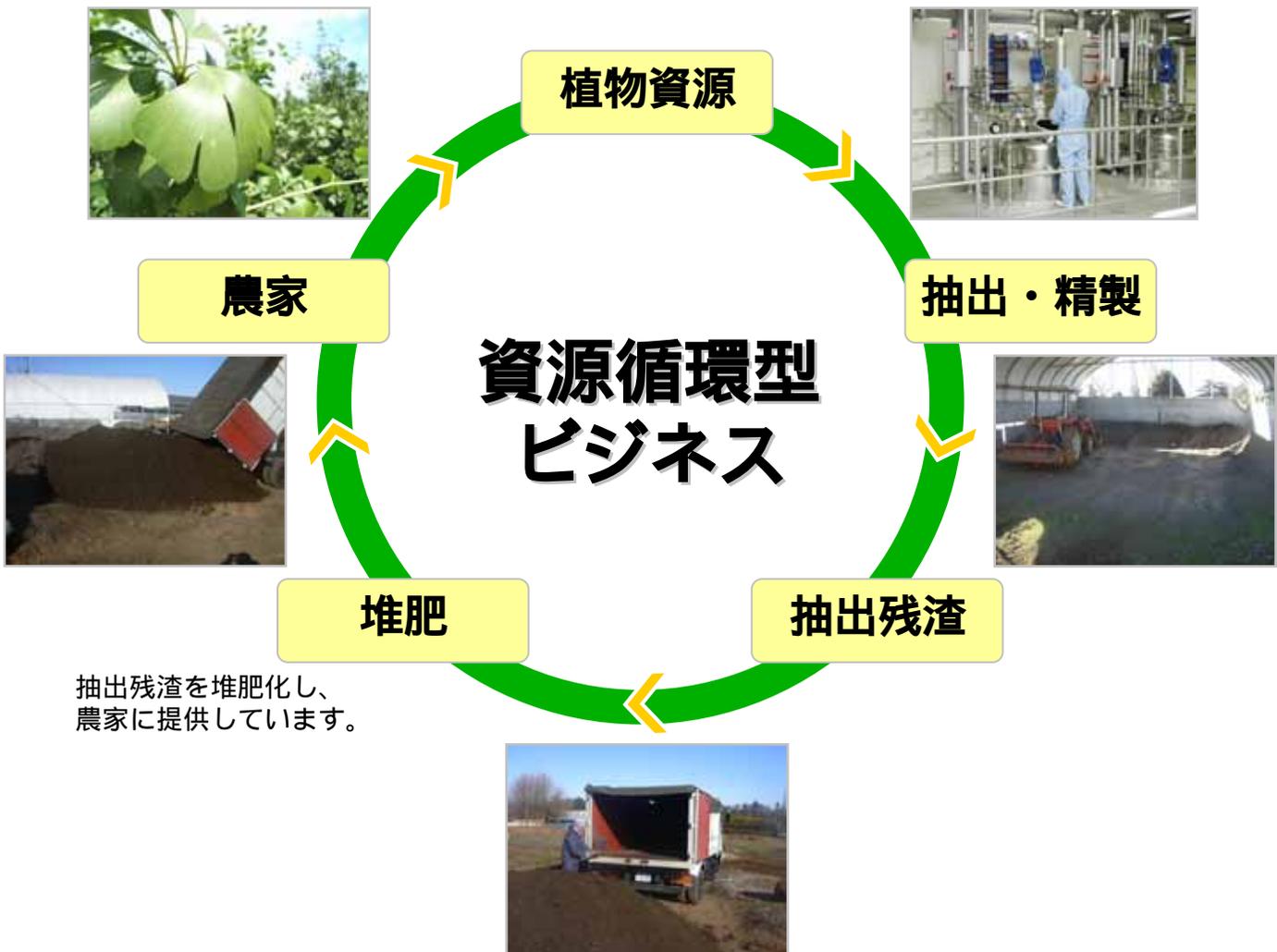
中期目標

	2007年度（基準年）	2008年度	2009年度	2010年度
二酸化炭素排出量（電力）の節減	1,849 千kg-CO ₂	1,812 （2%節減）	1,794 （3%節減）	1,775 （4%節減）
二酸化炭素排出量（燃料）の節減	2,484 千kg-CO ₂	2,434 （2%節減）	2,409 （3%節減）	2,385 （4%節減）
一般廃棄物の削減	53.1 t	52.6 （1%削減）	52.0 （2%削減）	51.5 （3%削減）
産業廃棄物の削減	65.8 t	65.1 （1%削減）	64.5 （2%削減）	63.8 （3%削減）
総排水の節減	119,166 m ³	116,783 （2%節減）	113,208 （5%節減）	110,824 （7%節減）
食品廃棄物のリサイクル率の維持	80%以上	維持	維持	維持



資源循環型ビジネス

資源を有効に活用し、地域活性化につながる循環型の生産活動を推進します。



農商工連携への取り組み

常磐植物化学研究所は、農商工連携施策にも取り組んでいます。地域農産物から、化粧品や健康食品等の製品開発を行い、地域経済の活性化を目指しています。今後、さらに連携を拡大・強化することで、今までにない多様な付加価値が生まれることが見込まれます。



とちおとめ（栃木）



菜の花（千葉）



びわ葉（富浦）

地域社会の一員として

地域社会との共生を目指し、地域の人々の安全と環境保全のための取り組みなど、豊かな社会の実現に向け、多様な社会活動を推進しています。

東京都薬用植物園の支援

常磐植物化学研究所は、東京都薬用植物園の薬用植物保護活動を応援しています。四季折々の薬用植物をホームページ（<http://www.tokiwapph.co.jp/club/cat7/>）で紹介しています。バジル、カモミール、エキナケアなどの身近なハーブから、普段は決して目にすることはできないケシや絶滅危惧植物まで、様々な薬用植物の写真を楽しめます。四季折々の植物からの便りをご覧ください。実際の植物たちに会いに、東京都薬用植物園（東京都小平市）まで、ぜひ足を運んでみてください。



キキョウ
【絶滅危惧種】



ヒスイカズラ
【絶滅危惧種】



ナガミヒナゲシ
【ケシ科】



ハカマオニゲシ
【麻薬原料植物・栽培禁止】

会社周辺美化活動

「地域の人々との共生」をテーマに、毎月会社周辺の美化活動を行っています。地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。





常磐植物化学研究所 社会・環境活動レポート2009

株式会社常磐植物化学研究所

<http://www.tokiwapc.co.jp/>

【本社・工場】

〒285-0801

千葉県佐倉市木野子158

TEL : 043-498-0007 FAX : 043-498-0561

【東京支社】

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

TEL : 03-5200-1251 FAX : 03-5200-1256

